



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2017
平成29年
6-20
No.538

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけします。

月例調査レポート



長野市 ハヤブサ(隼) の子育て

長野市西部の裾花川、白く切り立った断崖絶壁に、今年も希少種の猛禽ハヤブサが営巣し、4羽のヒナの子育てに奮闘しています。

獲物を目掛けて急降下するスピードは、鳥類最速の時速390キロにも達すると言われています。食欲旺盛なヒナのため、この日も親鳥は休む間もなく巣から狩りに出掛けて行きました。

- 長野しんきん 月例調査レポート …… 2
- 企業アンケート 人材育成 ③ …… 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン …… 8
- 北信濃 江戸時代の風景 (36) 善光寺 …… 10

あなたに元気、まちに活気。



長野信用金庫

概況 全産業

生産は2カ月連続の上昇 前年同月比は8カ月連続の上昇

◇29年3月の長野県鉱工業指数

(速報：季節調整済指数)

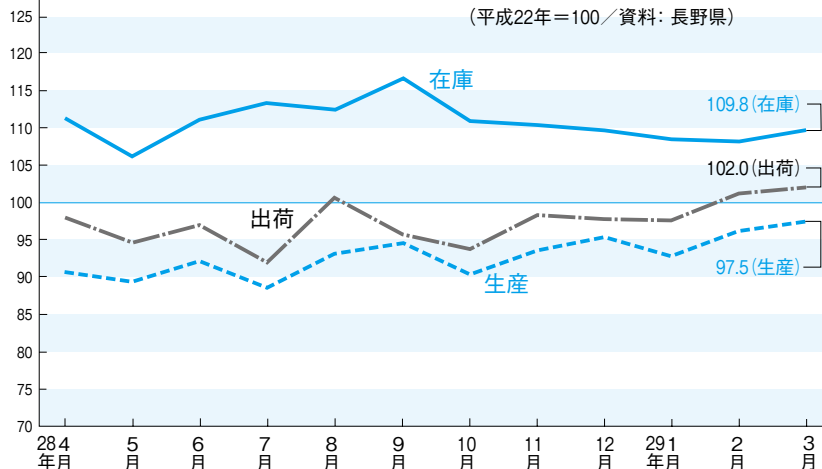
生産は97.5(前月比+1.5%)で2カ月連続の上昇、出荷は102.0(同+0.8%)で2カ月連続の上昇、在庫は109.8(同+1.5%)で6カ月ぶりの増加となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は103.9(前年同月比+5.5%)で8カ月連続の上昇、出荷は109.5(同+4.0%)で8カ月連続の上昇、在庫は101.6(同▲4.0%)で20カ月連続の低下となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移

(平成22年=100/資料：長野県)



[生産] 上昇…化学、電気機械、はん用・生産用・業務用機械など9業種

低下…情報通信機械、食料品、電子部品・デバイスなど8業種

[出荷] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、情報通信機械、窯業・土石製品など6業種

低下…電子部品・デバイス、食料品、化学など11業種

[在庫] 上昇…その他、紙・紙加工品、はん用・生産用・業務用機械など9業種

低下…電子部品・デバイス、情報通信機械、非鉄金属など7業種

月例調査

全産業の「売上高」はやや減少

前回調査 平成29年4月

◇5月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(28

%)が横ばい、「減少」割合(29%)が2割増加、「不変」割合(42%)が2割減少し、全体としては減少の状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比(2ポイント以上の動き)

↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
↗ 改善 ⇄ 不変 ↘ 悪化

全産業

前回

今回

不動産業・旅館業を除く

28.4 ↗	44.1 ↘	27.5 ↘	↗
増加 → 28.4	不変 ↘ 42.3	減少 → 29.3	↘

製造業

28.9 ↘	39.5 →	31.6 ↗	↘
--------	--------	--------	---

建設業

35.8 ↗	35.8 ↘	28.4 →	↗
--------	--------	--------	---

卸小売業

24.0 ↗	52.0 ↗	24.0 ↘	↗
--------	--------	--------	---

サービス業

25.0 ↘	50.0 ↗	25.0 ↗	↘
--------	--------	--------	---

輸送業

20.0 ↘	30.0 ↘	50.0 ↗	↘
--------	--------	--------	---

外食業

9.1 ↘	63.6 ↘	27.3 ↗	↘
-------	--------	--------	---

222社(回収率86.4%)

30人未満	74.8%
30人以上	25.2%

226社(回収率87.9%)

30人未満	75.7%
30人以上	24.3%

79社(回収率86.8%)

30人未満	68.4%
30人以上	31.6%

68社(回収率91.9%)

30人未満	86.8%
30人以上	13.2%

50社(回収率86.2%)

30人未満	86.0%
30人以上	14.0%

8社(回収率80.0%)

30人未満	62.5%
30人以上	37.5%

10社(回収率90.9%)

30人未満	20.0%
30人以上	80.0%

11社(回収率84.6%)

30人未満	72.7%
30人以上	27.3%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」全体は減少したが、自動車部品は増加

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(29%)が8割減少、「減少」割合(32%)が9割増加、「不変」割合(40%)が1割減少、全体としては減少の状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

製造業	前回	36.8	40.8	22.4
	今回	増加 28.9	不変 39.5	減少 31.6
食 料 品	15.4	30.8	53.8	
金 属 加 工	35.3	29.4	35.3	
一 般 機 械	33.3	50.0		16.7
電 気 機 械	0.0	71.4		28.6
自 動 車 部 品	60.0		40.0	0.0
精 密 機 械	28.6	42.8		28.6

〔業種別〕 増加…自動車部品

横ばい…一般機械・精密機械

減少…食料品・金属加工・電気機械

〔機械稼働〕 (前回比) 稼働率 下降

上昇割合 (28%) → 15%

下降割合 (13%) → 20%

〔受注状況〕 受注量(前回比) 減少

増加割合 (28%) → 21%

減少割合 (17%) → 16%

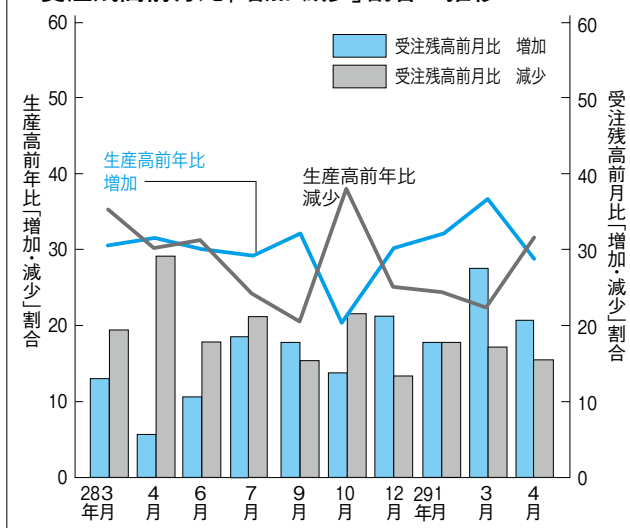
受注残高(1.5カ月) → 3.9カ月

〔受注基調〕 (前回比) 横ばい

上昇割合 (24%) → 26%

下降割合 (16%) → 17%

●生産高前年比「増加・減少」割合と受注残高前月比「増加・減少」割合の推移(％/資料:当金庫)



企業からのコメント

★同業社との価格競争が激しく、利幅が減少傾向。

(こんにやく製造)

★夏ごろ実施予定の荷物運賃値上げ要請が来ている。

(味噌製造)

☆★産業機械業界の設備受注が活発で、部材の入荷遅れが多発。納期が遅れ売上予定がずれ込んでいる。

(電気機械)

☆車載部品などの金属製品が好調。夏まで安定した状況。

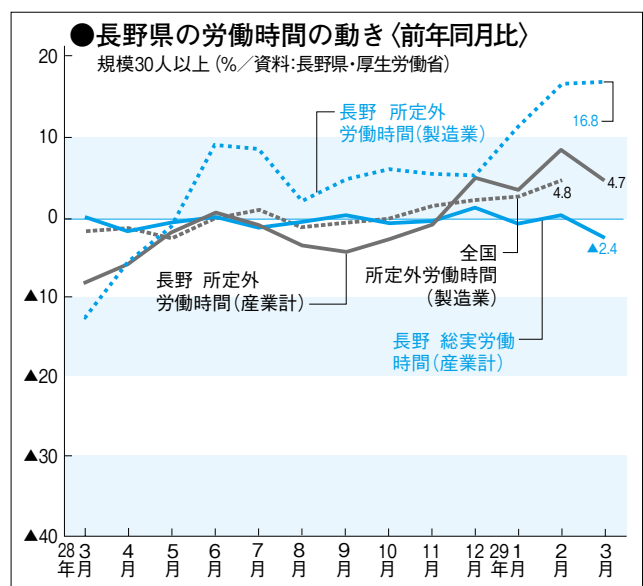
(金属製品)

★さのこ業界向けの機械は減少傾向が続いている。

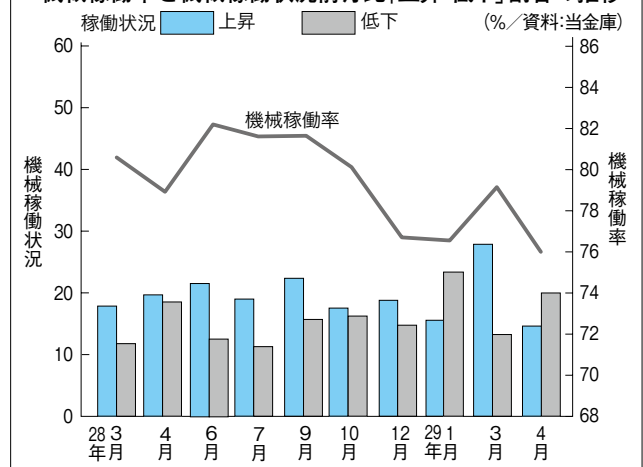
(一般機械)

☆昨年この時期から業績が大幅に退潮して厳しい状況が続いたが、ようやく回復基調になってきた。

(医療機器)



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・低下」割合の推移(％/資料:当金庫)



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」建築・各種設備は増加、総合建設・土木工事は減少

概 況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(36%)が14ポイント増加、「減少」割合(28%)が横ばい、「不変」割合(36%)が14ポイント減少し、全体としては増加の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	21.9	50.0	28.1
	今回	増加 35.8	不変 35.8	減少 28.4
総合建設業		45.5	45.4	9.1
土木工事業		36.4	18.1	45.5
建築業		25.0	41.7	33.3
各種設備業		50.0	33.3	16.7

【業 種 別】 増加…建築・各種設備

減少…総合建設・土木工事

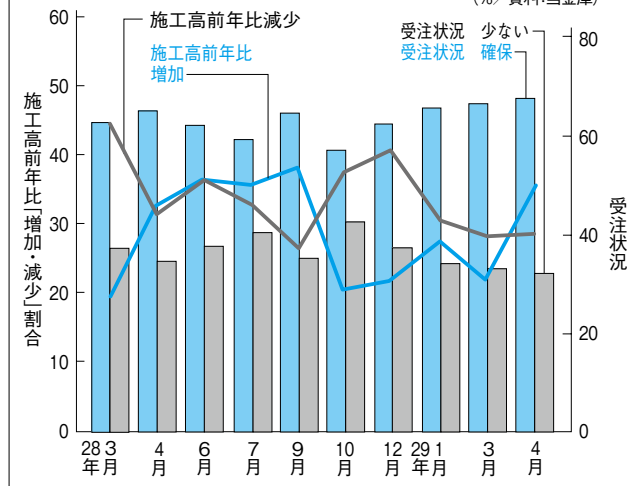
【受注状況】 受注残高(前回比) 改善

「多い・適正」割合 (67%) → 68%

「少ない」割合 (33%) → 32%

●施工高前年比「増加・減少」割合と受注状況の推移

(%/資料:当金庫)



企業からのコメント

- ★公共工事はまだ低調で、業界の仕事量は少ない。
- ★在来工法の住宅よりプレハブメーカーのハウスが多いように思う。(以上総合建設)
- ☆★建築工事は増加しているが、土木工事は減少傾向と感じている。(土木工事)
- ☆★秋口以降の引き合いは多いが、提示価格に不採算の恐れがあり、受注に踏み切れない。(内装工事)

4月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4月の発注合計は、年度初めのためまだ少ない状況で、332.1億円(前年同期比+97.3%)となりました。前年比は全項目がプラスで、「国」は33.7億円(同+82.7%)、「県」は51.3億円(同+5.7%)、「市町村」は106.6億円(同+43.4%)、「そのほか」は139.7億円(同+417.7%)となっています。

北信地区市町村の発注合計は65.1億円(同+148.2%)で、うち長野市は10.6億円(同▲56.7%)でした。

●建設業保証取扱分から見た平成29年4月の長野県と北信地区市町村の公共工事の状況

(単位=百万円/資料:東日本建設業保証株)

		29年4月	前年同期比
長野県	国	3,374	82.7%
	県	5,131	5.7%
	市町村	10,656	43.4%
	そのほか	13,974	417.7%
	合計	33,208	97.3%
北信地区	市町村	6,510	148.2%
	(内長野市)	1,059	▲56.7%

4月の新設住宅着工戸数

長野県の4月の新設住宅着工戸数は920戸(前年同月比▲10.9%)でした。持家が516戸(同▲16.0%)、貸家が258戸(同▲1.1%)、分譲が145戸(同▲7.6%)、給与が1戸(0.0%)です。

北信地区の4月の新設住宅着工戸数は234戸(同▲41.4%)でした。持家が149戸(同▲18.1%)、貸家が57戸(同▲50.9%)、分譲が27戸(同▲73.0%)、給与が1戸(同0.0%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数(平成29年4月)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	北信4月	149戸	57戸	27戸	1戸	234戸
	(内長野市)	93戸	49戸	17戸	0戸	159戸
	前年同月比	▲18.1%	▲50.9%	▲73.0%	0.0%	▲41.4%
	(内長野市)	▲18.4%	▲50.5%	▲81.3%	▲100.0%	▲47.9%
	長野県4月	516戸	258戸	145戸	1戸	920戸
長野県	前年同月比	▲16.0%	▲1.1%	▲7.6%	0.0%	▲10.9%

卸小売業

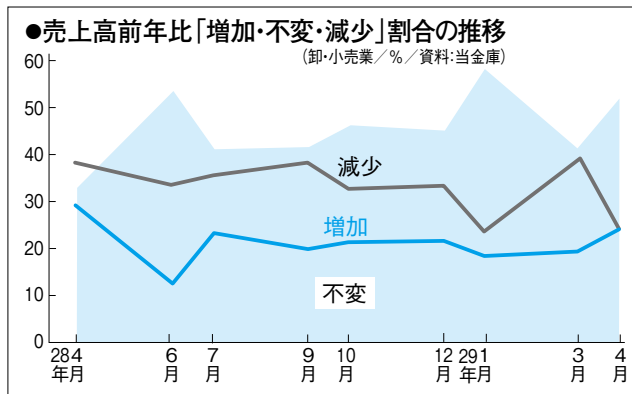
卸売業、小売業

「売上高」卸売・小売ともに増加

卸・小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(24%)が4ポイント増加、「減少」割合(24%)が15ポイント減少、「不変」割合(52%)が11ポイント増加し、全体として売上は増加の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	19.6	41.2	39.2
	今回	増加 24.0	不変 52.0	減少 24.0
卸 売 業		13.6	50.0	36.4
小 売 業		32.1	53.6	14.3



【業 種 別】 増加…卸売業・小売業

4月の消費者物価指数(長野市) 平成27年基準=100

◇総合指数(確報値)……100.5(7カ月連続のプラス)

(前月比+0.4%、前年同月比+0.5%)

上昇…「被服及び履物」「家具・家事用品」「教育」「光熱・水道」
下落…なし

◇生鮮食品を除く総合指数…100.3(4カ月連続のプラス)

(前月比+0.4%、前年同月比+0.5%)

企業からのコメント

☆この時季は山菜の売上が好調。お土産や贈答の発送にも利用される。(青果卸売)

☆安いから売れるかという、そうではない。付加価値を付け高めの価格にした方が興味を引くようだ。(健康食品卸売)

★これからは仕事も都会に集中し、地方は置いてけ堀をくうのではないかと懸念をいだく。(機械工具卸売)

★消費者の低価格志向がより一層強まっている。(生鮮食料品小売)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」全サービス産業が減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は25ポイント減少の25%、「減少」割合は5ポイント増加の25%、「不変」割合は20ポイント増加の50%と、売上は減少しています。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は13ポイント減少の20%、「減少」割合は17ポイント増加の50%、「不変」割合は3ポイント減少の30%と、売上は減少の状況です。タクシーは横ばい、運送は減少の状況です。

外食業 売上高前年比「増加」割合は16ポイント減少の9%、「減少」割合は19ポイント増加の27%、「不変」割合は3ポイント減少の64%と、売上は減少しています。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比5ポイントの減少、前年同月比は7ポイントの減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」は10ポイント増加の40%、「引合いやや増加」は30ポイント減少の20%でした。

企業からのコメント

★人手不足に伴う人件費の上昇傾向や燃料費の値上がりにより収益環境が厳しい。(運送業)

★乗務員の減少が売上減少の一番の要因になってしまった。夜間稼働も減少傾向。(タクシー)

★食材や光熱費などの値上がりで収益を圧迫しているが、価格に転嫁することは困難である。(飲食)

★年々車検台数が減っている。(自動車整備)

★引き合い地域に物件がなく成約に至らず。(不動産)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	50.0	30.0	20.0
	今回	増加 25.0	不変 50.0	減少 25.0
輸送業	前回	33.3	33.4	33.3
	今回	20.0	30.0	50.0
うちタクシー業		25.0	0.0	75.0
うち運送業		16.7	50.0	33.3
外食業	前回	25.0	66.7	8.3
	今回	9.1	63.6	27.3

経営計画・行動指針の提示 「明確に」+「かなり」示している 30%

若手の人材育成で重視すること 1位 「役割の理解と働きがい」 70%

企業アンケート 人材育成 ③ 29年3月調査

経営計画・行動指針の提示 [示している]は30%、「ある程度示している」は54%、「示していない」は14%でした。

若手の人材育成で重視すること 「役割の理解と働きがい」「コミュニケーション能力」「企業人としての自覚」が上位となりました。

経営計画・行動指針の提示

[示している] 30%

「ある程度示している」54%

「示していない」14%

「『経営指針』のもと、『経営計画』や『行動指針』を従業員に示しているか」を聞きました。

「明確に示している」(12%)と「かなり示している」(18%)を合わせた[示している]は30%、「ある程度示している」は過半数の54%、「示していない」は14%でした。

従業員規模で比べると、30人以上は[示している](49%)が30人未満より25%高く、30人未満は「ある

程度示している」(59%)が20%、[示していない](16%)が6%、30人以上より高くなっています。

業種別

[示している] 製造業36%

「示していない」サービス業20%

◇4業種

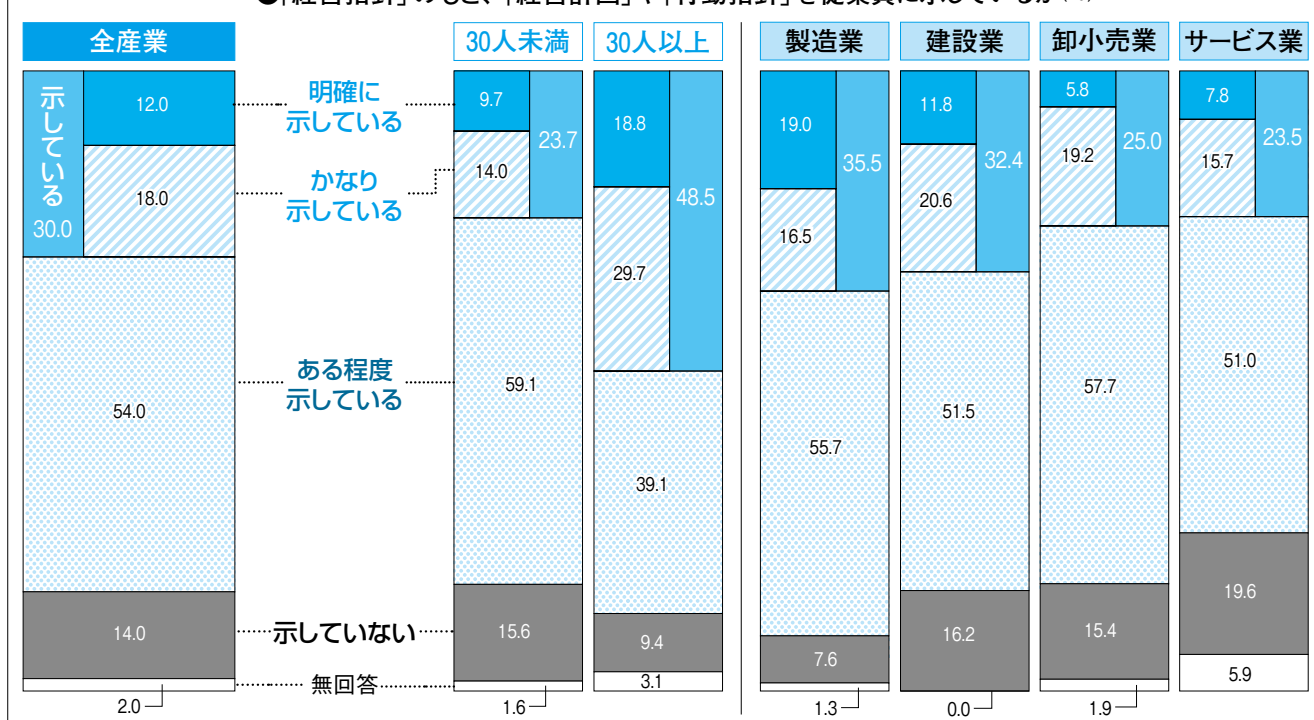
製造業 [示している](36%)は他業種に比べ最も高く、そのうちの「明確に示している」(19%)も他業種に比べ最も高くなりました。一方、「示していない」(8%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 [示している](32%)は製造業に次いで高く、そのうちの「かなり示している」(21%)は他業種に比べ最も高くなっています。

卸小売業 [示している]は25%ですが、そのうちの「明確に示している」(6%)は他業種に比べ最も低くなりました。「ある程度示している」(58%)は他業種に比べ最も高くなっています。

サービス業 [示している](24%)は他業種に比べ最も低く、「ある程度示している」(51%)も他業種

●「経営指針」のもと、「経営計画」や「行動指針」を従業員に示しているか(%)



に比べ最も低くなりました。よって「示していない」(20%)は他業種に比べ最も高くなっています。

若手の人材育成で重視すること

2位「コミュニケーション能力」46%

3位「企業人としての自覚」42%

「若手の人材育成で重視することはどんなことか」を聞きました。

最も高くなったのは「社員一人一人の役割を理解させ、働きがいをを持たせる」で、7割の企業があげています。次いで「社員相互のコミュニケーション能力を高める」(46%)と「経営方針を理解させ、企業人としての自覚を持たせる」(42%)が4割台、「成功体験を通じて仕事に自信を持たせる」(27%)が2ケタとなりました。ほかに「厳しい仕事を通して忍耐力を鍛える」と「社員間の競争を通じて向上心を高める」は1ケタでした。

従業員規模で比べると、上位4位までの項目は30人以上が30人未満より7割以上高いのですが、「コミュニケーション能力を高める」(61%)は20割、「企業人としての自覚を持たせる」(55%)は17割、30人未満より高くなっています。他方、30人未満は「厳しい仕事を通して忍耐力を鍛える」(11%)が9割、30人以上より高くなりました。

業種別

「役割の理解と働きがい」製造業79%

「成功体験で自信を持たせる」建設業31%

◇4業種

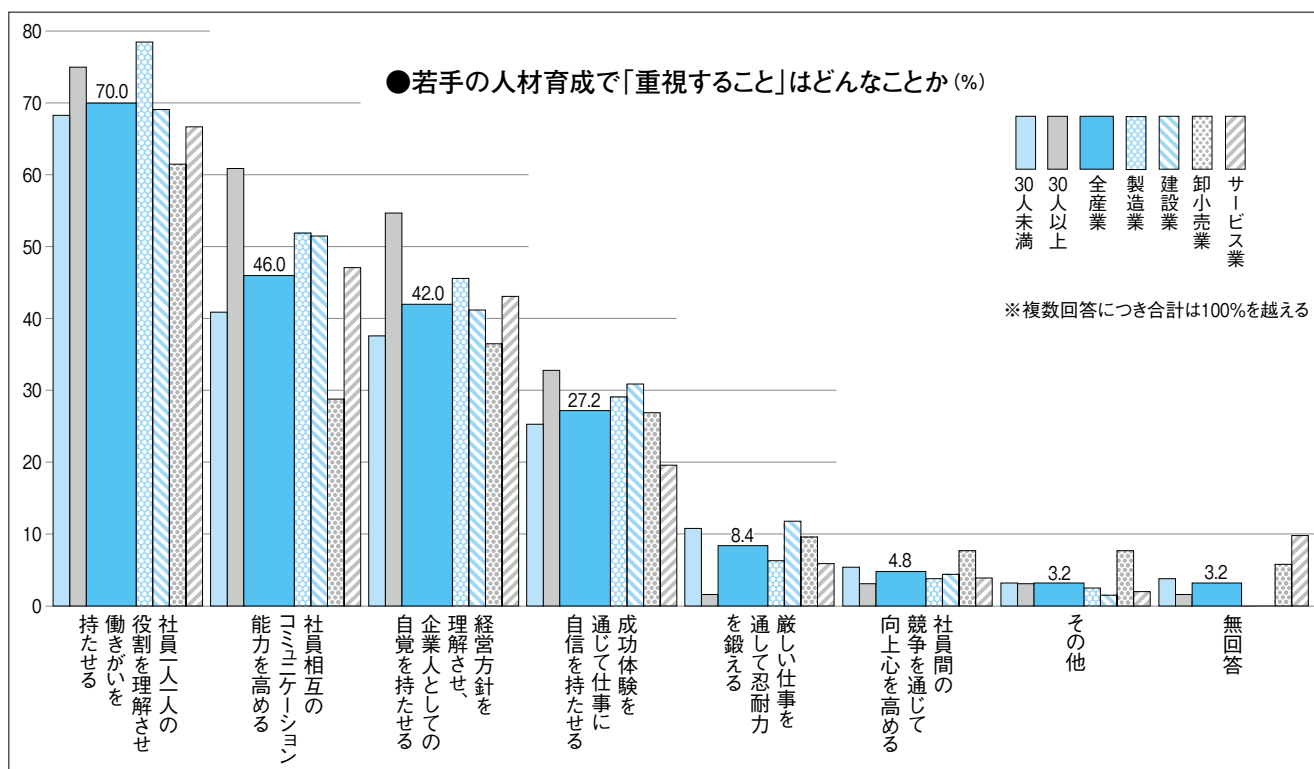
製造業 「役割の理解と働きがい」(79%)、「コミュニケーション能力」(52%)、「企業人としての自覚」(46%)の上位3項目は他業種に比べ最も高くなりました。「競争を通じて向上心を高める」(4%)は他業種に比べ最も低くなっています。

建設業 「役割の理解と働きがい」(69%)と「コミュニケーション能力」(52%)は製造業に次いで2位ですが、「成功体験で自信を持たせる」(31%)と「忍耐力を鍛える」(12%)は他業種に比べ最も高くなりました。

卸小売業 上位3項目「役割の理解と働きがい」(62%)、「企業人としての自覚」(37%)、「コミュニケーション能力」(29%)は他業種に比べ最も低くなりました。「競争を通じて向上心を高める」(8%)は他業種に比べ最も高くなっています。

サービス業 「企業人としての自覚」(43%)は製造業に次いで2位ですが、「成功体験を通じて自信を持たせる」(20%)と「仕事を通して忍耐力を鍛える」(6%)は他業種に比べ最も低くなりました。

◇7.20～9.20は「人材確保」を予定





仕事で地域を盛り上げたい “地域活性化”工務店

株式会社 ツチクラ住建
代表取締役 土倉武幸さま

●創業および継承の経緯などから…

先代の父が大工の修業をして独り立ちしたあと、地域の親御さんから頼まれて弟子を採り、建築の請負を始めました。基本的には、大工を中心にしてつくられた会社です。

一つの転機になったのが、昭和47・48年ごろから始まった霊仙寺湖周辺の別荘地開発です。別荘地に接するところに我が家代々の所有地があり、そこに事務所を設けて別荘建築の仕事をやり始めました。最盛期には住宅と別荘の比重が半々くらいになったようです。そんなバブルの面影がまだ残る平成元年に、大学卒業後2年ほど設計事務所で修業した私は郷里へ戻ってきました。

私が社長を継いだ平成12年には、別荘の仕事は大分少なくなっていましたね。

●ホームページの“地域活性化工務店”の思いは…

私が小学生のとき、別荘地開発が始まり、霊仙寺湖のそばにきれいな芝広場が出来上がると、父が私をそこへ連れて行って、「ここはもっともっと良くなるぞ」と語ってくれたんです。その時の印象がすごく強烈で、今も鮮明に覚えています。

それが、いざ郷里に戻って仕事を始めてみると、当時のイメージと違って、だんだん私の夢とかけ離れてきたのが、何か悔しくて…。うちの仕事の範囲で、地域を盛り上げることはできないかと、“地域活性化工務店”を掲げたのです。

「地域密着」はどここの工務店もうたいますが、私は、地域に人を呼び込むまで積極的に展開したいので、微力でも、地域を活性化できるような工務店

になりたいという思いでネーミングしました。

建築するのはこの地だけど、お客さまは全国にいるというスタンスですね。この地の良さを知って、ぜひ見に来て頂いて、最終的には移住してもらいたいという思いです。最初にこれ考えた時は、全国のお客様に向けて発信という、かなり壮大に感じたのですが、現在のようにインターネット、特にSNSがこれだけ普及すると、随分イメージしやすくなってきました。「飯綱町に住もう!」を打ち出し、Iターン・Uターンの受け入れに伴う不動産流通やリノベーションの提案等で地域に貢献出来たらいいなと考えています。

●“ツチクラの森”はどのような取り組みですか…

3年ほど前、行き掛かり上、別荘地の古いペンションを買い取ることになってしまいました。それでも、敷地が広く建物の構造がしっかりしているので、社内で有効活用案を募集したところ、リニューアルして、キャンプやアウトドアの遊びもできる企業の研修施設に、また、仕事の合間に緑の中でリフレッシュできる、都会のIT企業の移転先などの案が出てまいりました。こちらはまだ悪ノりしながら手を加えている途中ですが、不動産としてただ仲介するのではなく、何か全く別の新しい付加価値を付けて、それこそ全国の悪ノりに付き合ってくださいるお客様に提案していきたいと考えています。

●“ツチクラの田んぼ”とは…

Iターンで飯綱町に来た社員が子どもたちに農業体験をさせたいというのが最初なんですが、田んぼだけでなく、りんごづくりにも手を出したりして、これも悪ノりに近いですね。やはりこの地域での生活を楽しんでいる姿を見れば、住んでみたくなる人も増えるのではないかと思います。

“地域活性化工務店”の社員としては、活性化も仕事の一環ですから、地域活動も積極的に楽しんでもらいたいですね。消防団や公民館とかの役を頼まれたら、なるべく喜んで引き受けてほしいと

言っているんです。実際そんなつながりの中で仕事をいただけることも多いですね。

●従業員のモチベーションの引き出し方は…

うちの社員は基本的に誠実で正直な、気持ちのいい人たちの集まりだと思っています。ノルマは一切ありません。社員一人ひとりが、お客さまからありがたい言葉をいただけること。ある意味それがノルマですかね。それには、社員同士が仲良く協力し合える関係性が重要だと思います。

仲間同士が、全体の状況を広い視野で捉えながら、自分の仕事を手伝ってもらったり、手伝ってあげたりという思いやりの心でチームとして結果を出せる、そんな会社になったらいいと思います。私自身変なプレッシャーがかかると、仕事に集中できなくなる性質なんで、しっかり仕事に集中できる環境づくりには、今後も注力していきたいですね。

●世代間のギャップなどに関して…

年配の3人の大工さんは60を過ぎ、次の世代は40代前半。10～30代が10人ほどいます。40代後半から50代の職人がいないというギャップをどうするかが目下の懸案です。熟練の技を持っている60過ぎの大工さんは、体力的に少しきつくなっている状態ですが、まだまだ伝えきれていない技を持っています。技の伝承者が社内にいる恵まれた環

境のうちに、技をすべて吸収するように話しているところですよ。

●「住建まつり」と、今後の方針や夢について…

「住建まつり」は、うちのOBのお客さまと地域の皆さんに、一日楽しんで頂くのが第一の目的の感謝祭です。先行投資の意味合いで、将来的なリクルートの一環として、子どもたちに大工仕事を体験してもらうコーナーを充実させています。大工さんの仕事は面白いなと感じてもらえたら、職業の選択肢に加えていただける…。そんな種をまいておくことも大切ではないかと思っています。

工務店としての経験値を上げるには、ある程度の規模とか年間の棟数が必要となりますので、施工エリアを長野市北部と近隣市町村まで広げました。年間を通して、いつでも施工途中の現場を見ていただけるようにと。以前から「ツチクラさんの家は暖かくて」といわれているように、住宅の性能には自信がありますので、そこは今後もブラッシュアップを図ります。また、若い世代に訴求する洗練されたデザインにも、より一層力を入れていこうと考えています。

そして最後に現場の力。大工が全員社員であることがうちの優位性です。腕だけ良ければいいのではなく、良い家をつくるために、お客さまへの対応力、コミュニケーション能力にも優れた大工を養成し、いつまでもお客様に喜ばれる家を創っていきたいですね。



社屋

●事業の概要

創 業 1973年(昭和48)
資本金 2,000万円
代表者 土倉 武幸
従業員 24名(男21・女3)
業 務 建築工事業
事業所 長野県上水内郡飯綱町大字川上2237
U R L <https://tsuchikura.com>

●沿革

1962年(昭和37) 土倉剛が大工の修業を経て個人営業を開始
1973年(昭和48) 株式会社ツチクラ住建設立
1989年(平成元) 土倉武幸入社 一級建築士事務所開設
2000年(平成12) 土倉武幸 代表取締役就任

北信濃 江戸時代の風景

(36) 善光寺

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



絵の文字を読む

本堂と山門を中心とする善光寺境内の鳥瞰図です。右上に「善光寺境内」の文字があります。左上には「委敷ハ木曾図会出タリ。開基本田善光像本堂内に安置」と書いてあります。開基の本田善光像を本堂内に安置していること等、善光寺の詳しいことは『木曾図会』に書いてあるということです。『木曾図会』は中山道の案内書『木曾路名所図会』のことと思われるが、この本に善光寺についての記述はないので、別の本かもしれません。

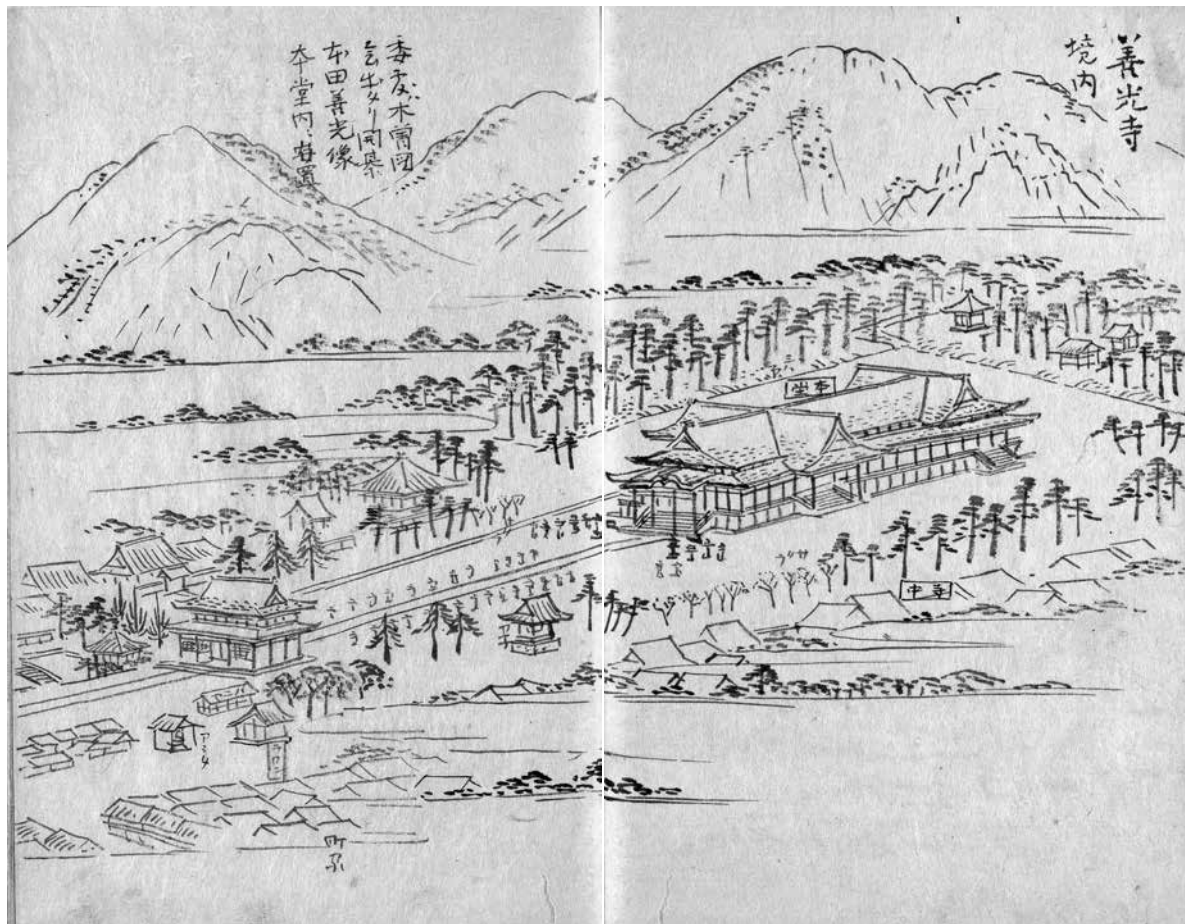
この絵を描いた長谷川雪旦(1778~1843)が善光寺を訪れたのは天保2年(1831)ですから、文化2年(1805)に出版された『木曾路名所図会』を読んでいたはず。そうした先行の名所図会を参考にして雪旦が江戸の名所を描いた『江戸名所図会』の、

前半3巻が出版されたのは、天保5年(1834)のことです。なお、雪旦の絵ではありませんが、『善光寺道名所図会』が刊行されたのは、嘉永2年(1849)です。

本 堂

奥行き、柱間などもほぼ正しく、専門の絵師だけに巧みに描かれています。しかし屋根の形が奇妙です。善光寺の本堂は撞木造しゅもくづくりといって、上から見ると丁字形になっています。撞木とは鐘を打つ木槌のことです。ところがこの絵では干の字になっています。雪旦はうろ覚えで描いたのでしょうか。

しかし屋根の質感の表現はさすがです。現在の本堂はヒノキの皮で葺いた、檜皮葺ひわだぶきです。しかしこれは宝永4年(1707)の建築当時からそうであっ



善光寺の図（『北国一覽写』より）

たわけではなく、大正10年から昭和5年にかけて行われた大修理によって檜皮葺に改められたのです。それ以前は山門のように、サワラの板で葺いた^{としぶき}栩葺だったのです。この本堂の屋根は、栩葺の質感がよく表れています。山門の屋根の表現も同様であることが分かります。

歳神堂

本堂の背後、現在の大本願墓地の位置に、前後に並んだ建物があります。これが歳神堂で、本殿と拝殿からなる神社です。長野市上松の駒形嶽駒弓神社の神が正月の間ここに参籠するといわれ、善光寺のお年越しの行事は現在は御供所で行われていますが、歳神堂があった時代はここで行われていました。

歳神堂は善光寺の神社の部分だとされていたので、明治初年の神仏分離令によって善光寺から切り離され、城山に健御名方富命彦神別神社(水内大社・県社)を造って移転しました。歳神堂の社殿は、長野市高田中村の守田迺神社の本殿となっており、現在も残っています。江戸初期の建築とされ、長野市指定の文化財となっています。

納骨堂

本堂の左後方にある堂です。単に骨堂などとも呼ばれていました。善光寺には昔から死者の遺骨を納める習慣がありました。善光寺の周囲や背後の山から大量に出土する五輪塔は、納骨して建てた石塔と考えられます。しかし江戸時代になると五輪塔を建てる習慣がなくなり、納骨堂に納めるようになったのでしょう。

日露戦争後の明治39年、納骨堂の位置に忠霊殿が建てられ、戦死者の遺骨を納めるようになりました。一方納骨堂は背後の地附山の中腹に移転させるために、昭和10年から新築工事を行いました



城山公園から見た善光寺背後の山々

が、戦争の時代になったため、昭和24年によく落慶法要が行われました。これが雲上殿で、平成になって西納骨堂と東納骨堂が増設されました。

秋葉社

本堂の南西に経蔵があり、その南側に鳥居のある神社が描かれています。これは秋葉社で、大勧進が管理していました。明治5年に横沢町の八幡社に合祀されたため、現在はありません。

江戸時代には秋葉山(静岡県浜松市)の信仰が盛んになり、火伏の神として秋葉神社が各地に勧請されました。善光寺の門前では権堂町、西後町、北石堂町などが秋葉神社をまつっていますが、善光寺の境内にも秋葉社があったのです。

背後の山々

善光寺境内の背後に、山々が写実的に描かれています。右上の高い山は大峰山(828メートル)でしょう。右側に地附山(733メートル)が続いています。大峰山の左側は郷路山で、東面は往生寺山などとも呼ばれています。

左側の離れた山は旭山(785メートル)でしょう。大峰山と旭山は善光寺領の山で、善光寺のお花山などと呼ばれてきました。

7月号は「善光寺(続)」の予定です。

◆自分で能力を磨き、道を切り開くべきか **[思う] 80% [思わない] 20%**

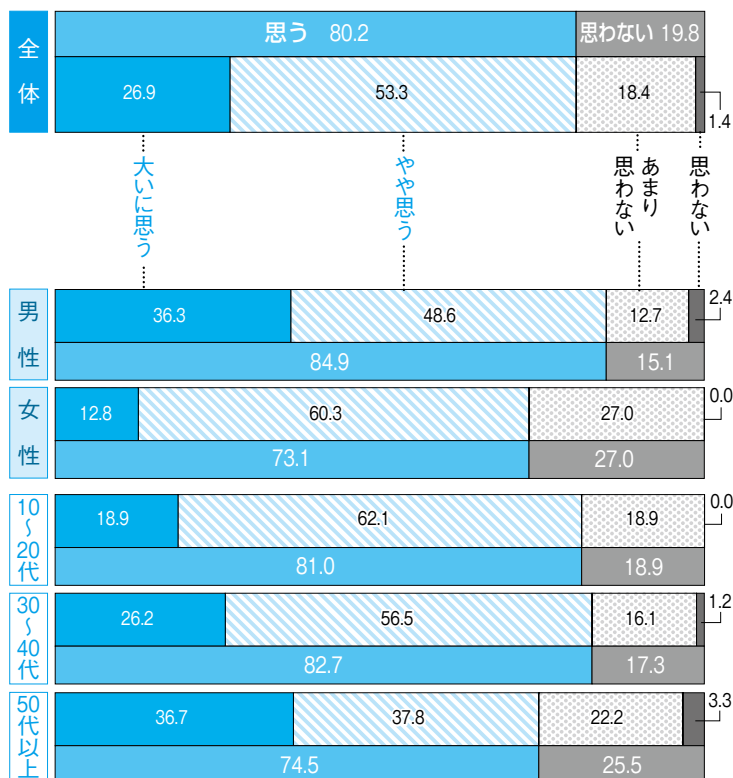
「企業や組織に頼らず『自分で能力を磨き、道を切り開くべきだ』という意見に関してどのように思うか」を聞きました。

「大いに思う」(27%)と「やや思う」を合わせた[思う]は80%、「あまり思わない」(18%)と「思わない」を合わせた[思わない]は20%でした。

男女別で見ると、男性の[思う]85%、[思わない]15%に対し、女性は73%対27%で、男性の[思う]が女性より12%高くなりました。

世代別では、10～20代の[思う]81%、[思わない]19%に対し、30～40代は83%対17%、50代以上は75%対25%で、30～40代の[思う]が50代以上より8%高くなりました。〈当金庫・29年3月調査〉

●企業や組織に頼らず「自分で能力を磨き、道を切り開くべきだ」という意見に関してどのように思うか (%)



●みなさまの経営相談のご案内 [7月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
7月 5日 水	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	7月 18日 火	墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)
6日 木	屋代支店 (稲荷山支店・埴生支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)	19日 水	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
7日 金	大豆島支店 (長池支店)		21日 金	大門町支店 (桜枝町支店)	
11日 火	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	24日 月	本店営業部	善光寺下支店 (権堂支店)
12日 水	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)	26日 水	本部	
14日 金	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	27日 木	本部	

●7月の「しんきん事業相談会」は7月5日(水)です

長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <http://www.nagano-shinkin.jp/>

●「すかい」は長野信用金庫のホームページでもご覧いただけます●

